

## 日経連の洋上研修に参加して

難波孝至

### はじめに

私は、1993（平成5）年10月15日から29日まで15日間の日程で、日本経営者団体連盟主催の第29回日経連洋上研修に参加した。日経連の洋上研修は、1970（昭和45）年に始まり、参加者も延べ約1万2,000名を数え、全国の企業から参加した約500名の管理監督者が船に乗り、台湾・香港・上海を巡りながら、相互啓発を続ける研修である。航行中、参加者はグループに分かれて、研究討議、講演などを受け、各寄港地ではそれぞれの経済や文化事情を視察し見聞を広めるのを目的としたものである。1年前の記憶を辿って拙文であるが雑感を述べて報告したいと思う。

始めに断わっておくが、この報告書は図書館学とは何ら関係がなく、中京大学図書館員として洋上研修に参加したことを申し添える。

### 1. オリエンテーション

まず先に、9月7日から9日までの3日間、洋上研修のオリエンテーションが催され、東京・新宿の日本青年会館で、事務局より団の構成・研修について概要の解説があった。今回は、全国174社からなる多種の企業からの参加があり、かつては、中堅以上のメーカーからの参加が大半を占めていたようだが、近年は、ホテル、マスコミ業など多様化しているとのことであった。参加者の年齢は、最年長者は56歳から年少者は23歳までで、課長、係長、主任、班長、技術長、指導者などの部下や後輩を管理指導する立場の人達である。このように、参加者の年齢、職種は様々で大変興味深

いオリエンテーションの幕あけとなった。不安と緊張の中で、洋上研修記録ビデオの上映、通関手続上の留意点、渡航手続と寄港地ガイダンスが行われた。次に、各グループ別にミーティングがあり自己紹介が行われ、やっと緊張も解れ、役員の選出と15日間の洋上研修におけるグループの討議テーマが決定された。参加者多数のためAとBのチームに2等分して全体を10班に分け、更に1班を6グループに分割された。1グループは8～9名で、私の所属するBチーム第6班第1グループは8名で構成されている。

**総合テーマは、事前に設定されており、「今、求められる管理・監督者の発想と行動とは」**である。

役員は、班長、グループ長、司会者、書記、発表係、レクリエーション委員、広報委員などがあり、参加者全員が何らかの役割をもつこととされた。なお、私は書記を担当した。

2日目の夕方から晴海埠頭に停泊中の豪華客船「飛鳥（28,717トン）」へ移動し、船内見学後に班別ミーティングがあり、船側からは船内生活ガイダンスが行われた。

翌日は、台風14号の接近で、スケジュールの中止や講演の繰り上げをして、遠方より参加の団員は早目に下船を余儀なくされた。

## 2. 研究集会

いよいよ、10月15日洋上研修のスタートを切り、久しぶりに再会した団員達はお互いに握手を交わしたりして喜び合った。横浜大栈橋では、参加団員の職場、家族の者が埋め尽くされ、会社名の入った垂幕、団員の健闘を祈った横断幕があり、乱舞する紙テープ、吹奏楽団の演奏、歓声、ドラの音の中、盛大な見送りとなった。目頭が熱くなるような感激深い船出であった。同時に自分の役割、そして、責任の重さをひしひしと身に感じた。日程は次のとおりである。

## 平成5年度第29回日経連洋上研修 研修日程

月日	第1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目
時間	10/15(金)	10/16(土)	10/17(日)	10/18(月)	10/19(火)	10/20(水)	10/21(木)	10/22(金)
6:00								
6:30		6:30 起床		朝礼なし	朝礼なし		朝礼なし	朝礼なし
7:00		朝礼A 7:05~ B 7:35~	朝礼A 7:05~ B 7:35~	朝食 A 6:45~7:10 B 7:35~8:00	朝食 1. 6:15~6:45 2. 7:15~7:45	朝礼A 7:05~ B 7:35~	朝食 A 6:45~7:10 B 7:35~8:00	朝食 1. 6:15~6:45 2. 7:15~7:45
8:00		朝食 A 7:30~8:10 B 8:35~9:15	朝食 A 7:30~8:10 B 8:35~9:15	食事終了後 入国手続 待機	下船8:00	朝食 A 7:30~8:10 B 8:35~9:15	香港着8:00	下船7:15
9:00					台北市内 ① 企業見学コース ② 流通事情見学コース ③ 経済人講演コース		講演(領事) 8:30~9:15	自由行動
10:00	集合受付 10:30	避難訓練 9:30~10:00	団長講演 9:30~10:45	台湾・基隆着 10:00		講演(レク) 9:30~10:45	下船9:30	
11:00	出国手続 乗船開始	研究集会 10:15~ A 12:00まで B 12:45まで	台湾オリテン 10:45~11:45	昼食A 11:00~11:30		香港オリテン 10:45~11:45	香港島研修	
12:00	昼食 11:20~13:00	昼食A 12:00~ 12:45	昼食A 12:00~ 12:45	昼食B 11:45~12:15	会食 11:30~12:30	デッキ ビュッフェA 11:45~ 12:45		ランチ(希望者のみ) 12:00~1:00
13:00	社行式 13:20~13:40			下船12:15~				
14:00	出港 14:00	昼食B 13:15~ 14:00	昼食B 13:15~ 14:00	基隆・台北市内研修	自由行動	デッキ ビュッフェB 13:15~ 14:15	会食 13:00~14:00	自由行動
15:00	オリエンテーション 15:00~16:00	研究集会 A 13:45~ B 14:30~	研究集会 A 13:45~ B 14:30~				九龍市内研修	
16:00	定例 ミーティング 16:15~17:00	18:00まで	18:00まで			研究集会 A 13:45~ 18:00まで B 14:30~ 19:00まで		
17:00	班別 ミーティング 17:00~			研修終了 17:30			帰船17:00	
18:00	A 18:00まで B 19:00まで						自由行動	
19:00	夕食A 18:30~ 19:30	A 18:20~ 19:20	夕食A 18:20~ 19:20	自由行動	夕食(船内) 希望者のみ 19:00~20:30	正餐 夕食A 18:30~ 19:45		夕食 フリーシート ① 19:00~19:30 ② 20:30~21:00
20:00		船長主催 パーティー 19:00~ 19:45	船長主催 パーティー 19:00~ 19:45		夕食(船内) 希望者のみ 19:30~20:30	正餐 夕食B 20:15~ 21:30	夕食(船内) 希望者のみ 19:30~20:30	帰船20:00
21:00		夕食B 20:00~ 21:00	夕食 19:50~ 20:50					
22:00	広報・ レク委員会 21:15~22:00	自主研修	自主研修		帰船22:00	台湾出港 22:00	マイプランタイム (船側各種イ ベント設営) オプション セミナー	香港出 22:00
23:00	就寝						帰船22:30	

日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	1日の基本日程
10/23(土)	10/24(日)	10/25(月)	10/26(火)	10/27(水)	10/28(木)	10/29(金)	
A シト交替							6 起床 6:30 就寝 23:00 7 Aチーム: 1班~5班 8 Bチーム: 6班~10班 (A・B交替10/23より) 9 [朝礼] 早 7:05~7:25 遅 7:35~7:55 11 [食事時間] 日程中一部若干の変更あり 朝食 7:30~ 8:10 8:35~ 9:15 12 昼食 12:00~12:45 13:15~14:00 夕食 18:30~19:30 20:00~21:00 15 夜食 22:00~22:45 16 寄港地での希望者の夕食 フリーシート 19:30~20:30 入場は 20:00まで 17 正餐の時 18:30~19:45 18 20:15~21:30 [モーニングティー] 6:30~ 7:30 19 [アフタヌーンティー] 15:15~16:15 20 [講演・研修時間] 原則 21 午前 9:30から 午後 13:45から 22 [定例ミーティング] 8:10~ 8:30 [事務局ミーティング] 23 6:45~ 6:55
朝礼 B7:05~ A7:35~	朝礼 B7:05~ A7:35~	朝礼なし	朝食6:00~ 朝礼なし	朝礼 B7:05~ A7:35~	朝礼 B7:05~ A7:35~	朝礼 B7:05~ A7:35~	
朝礼 B7:30~8:10 A8:35~9:15	朝食 B7:30~8:10 A8:35~9:15	朝食 B6:45~7:10 A7:35~8:00	朝食(モーニング ティーなし) 1. 6:00~6:20 2. 6:40~7:00 3. 7:30~8:00 下船7:00~	朝食 B7:30~8:10 A8:35~9:15	朝食 B7:30~8:10 A8:35~9:15	朝食 B7:30~8:10 A8:35~9:15	
研究集会 F 9:00~ 12:00 A 9:30~ 12:30	名誉団長講演 9:30~10:30 上海オリテン 10:30~11:30	朝礼なし	自由行動	研究集会 B 9:00~ 12:00 A 9:30~ 12:30	横浜帰港 オリテン 9:30~10:30 マイプラン タイム 参加者交歓会 10:45~12:00	下船準備	
昼食B 12:00~ 12:45	昼食B 11:30~ 12:15	上海着8:00 講演(領事) 8:30~9:15	自由行動	昼食B 12:00~ 12:45	昼食B 12:00~ 12:45	昼食B 11:30~ 12:15	
昼食 13:15~ 14:00	昼食A 12:45~ 13:30	会食 12:00~13:00	ランチ(船内) 希望者のみ 12:00~13:00	昼食A 13:15~ 14:00	昼食A 13:15~ 14:00	昼食A 12:30~ 13:15	
研究集会 B1 14:45~ 18:00 A1 14:30~ 19:00	海上慰霊祭 13:45~14:15	上海市内研修	自由行動	研究集会 B13:45~ 18:00 A14:30~ 19:00	研究報告会 修了式 14:15~18:00	入国手続	
正餐	デッキ バイキング B18:00~19:00 A19:30~20:30	研修終了 17:30	自由行動	夕食B 18:30~ 19:30	夕食B 18:30~ 19:30	横浜着 14:30	
夕食 20:15~ 21:00	自由行動	自由行動	上海出港 20:00	夕食A 20:00~ 21:00	夕食A 20:00~ 21:00	税関手続終了 後自由解散	
マイプランタイム [船側各種イ ベント設営] オプション セミナー	休日 [船側各種イ ベント設営]	自由行動	自主研修	マイプラン タイム [船側各種イ ベント設営]	さよなら パーティー 21:00~22:30	17 正餐の時 18:30~19:45 18 20:15~21:30 [モーニングティー] 6:30~ 7:30 19 [アフタヌーンティー] 15:15~16:15 20 [講演・研修時間] 原則 21 午前 9:30から 午後 13:45から 22 [定例ミーティング] 8:10~ 8:30 [事務局ミーティング] 23 6:45~ 6:55	

自主研修……班, グループ主体で自由研修  
 マイプランタイム ……個人で自分の研修設営

研究集会は、この研修では最も重要な位置を占め、「総合テーマ」にもとづいてグループごとに設定した「討議テーマ」について研究、考察、討議するもので、討議時間の合計は40時間あまりにものぼるものである。そのまとめは、表1～4にあげたとおりであるが、その過程を簡単に説明したい。

表1

<b>6班1グループ</b>		
<b>討議テーマ</b>		
リーダーとして豊かな人間性を作るためには		
<b>氏名(会社名)</b>		
平原 隆 新王子製紙(株)	政藤 賢一 東日本旅客鉄道(株)	多田 一夫 (株)関電工
山本 進 (株)金陽社	難波 孝至 (学)梅村学園中京大学	田神 英司 東京電力(株)
高橋 光成 日本たばこ産業(株)	山田 直次 埼玉機器(株)	
<p>1. テーマ選定の理由</p> <p>目まぐるしく発展して来た日本経済から一転して、バブルがはじけた複合不況の厳しい状況になった今日、『一番求められるものは何か』をメンバー全員でブレinstoーミング法を使用して、問題を討議・検討した結果、各企業とも低成長期のこの時期に<u>リーダーの豊かな人間性を作ることが重要な時期と</u>考えた。</p> <p>2. 現状把握</p> <p>①ベテラン社員と新入社員の年齢差が大きくまとまりに欠ける。</p> <p>②仕事以外の話題が少なく信頼関係に欠ける。</p> <p>③お互いに声がかけづらいため相手を理解できない。</p>		

表 2

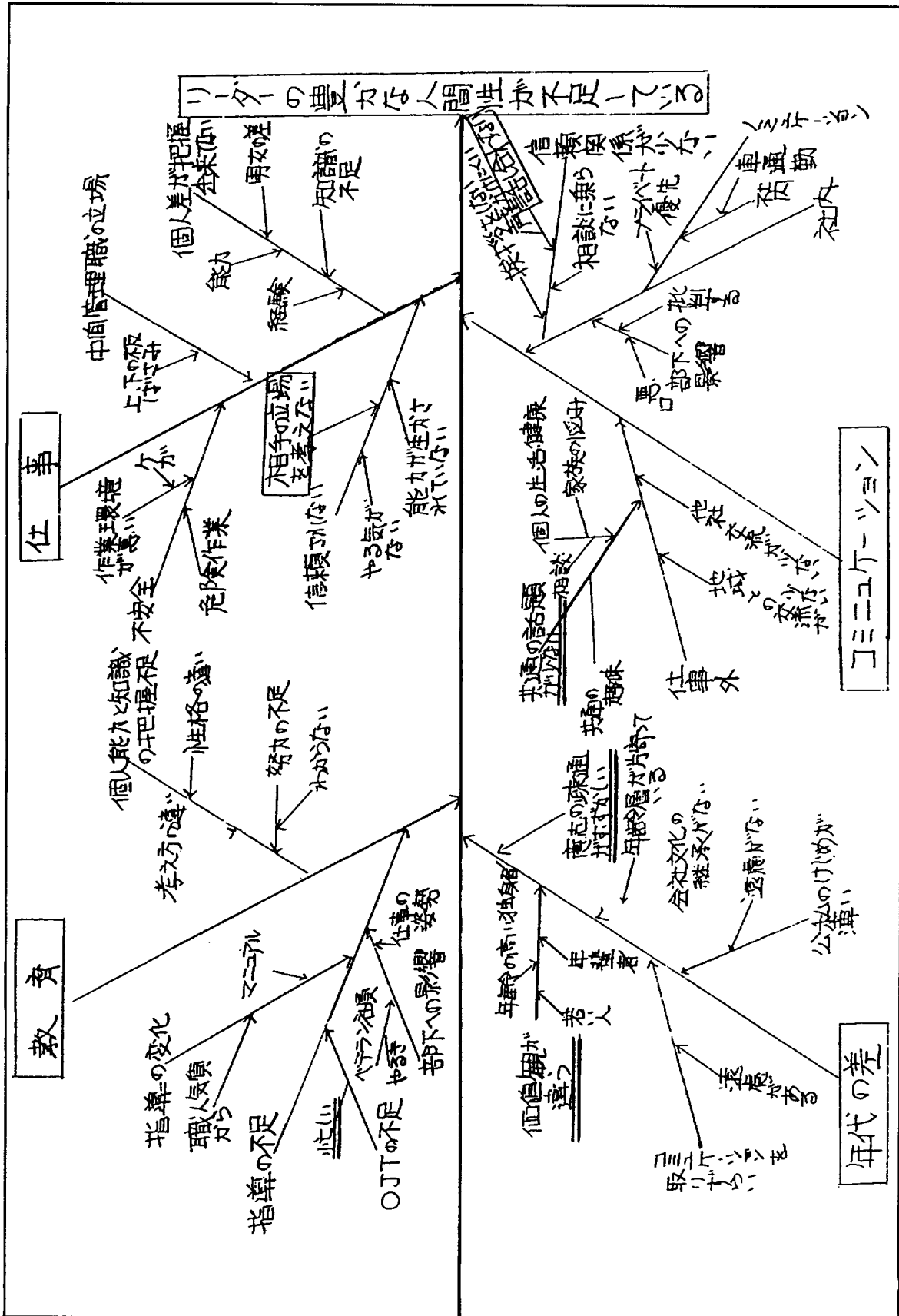


表 3

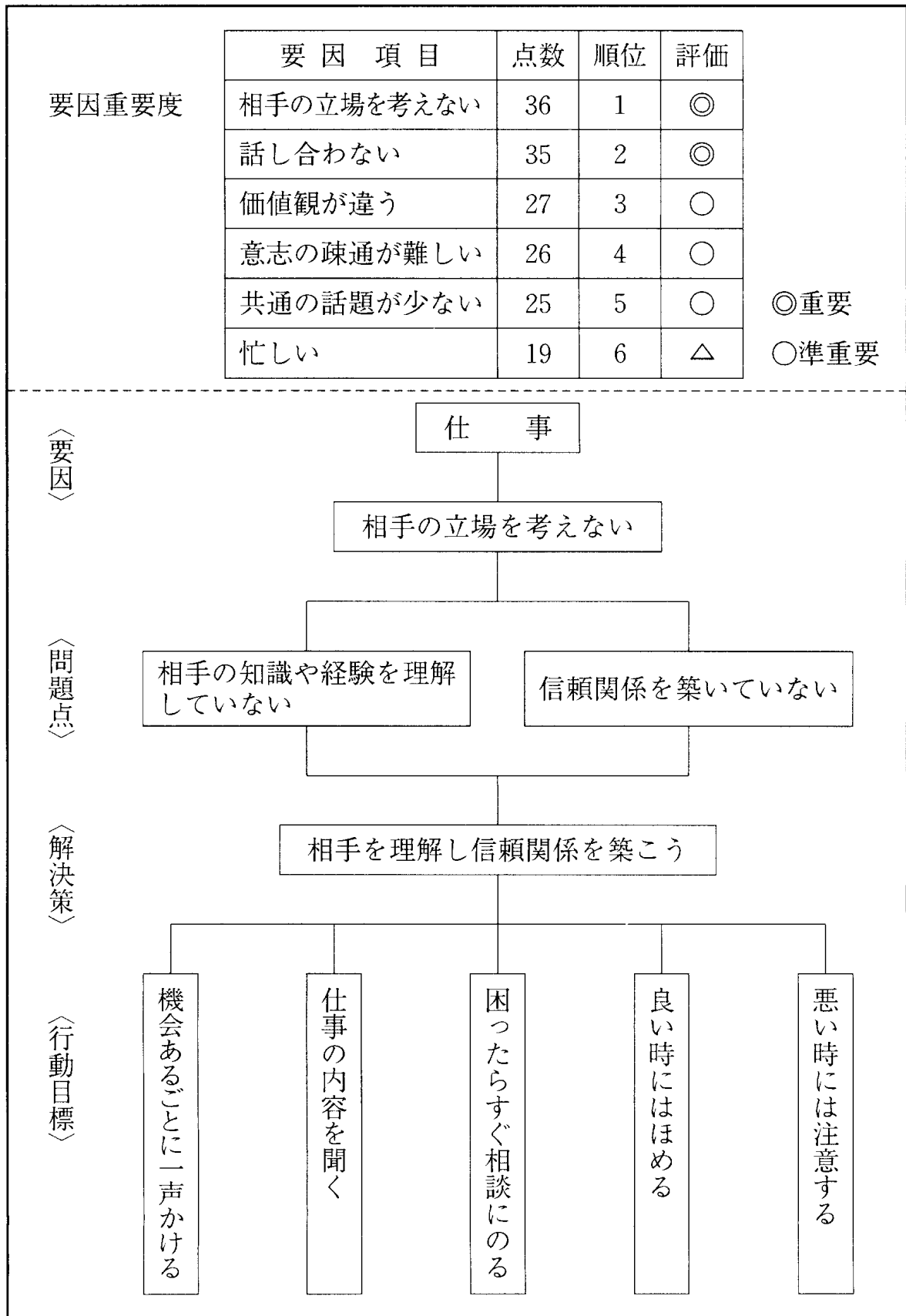
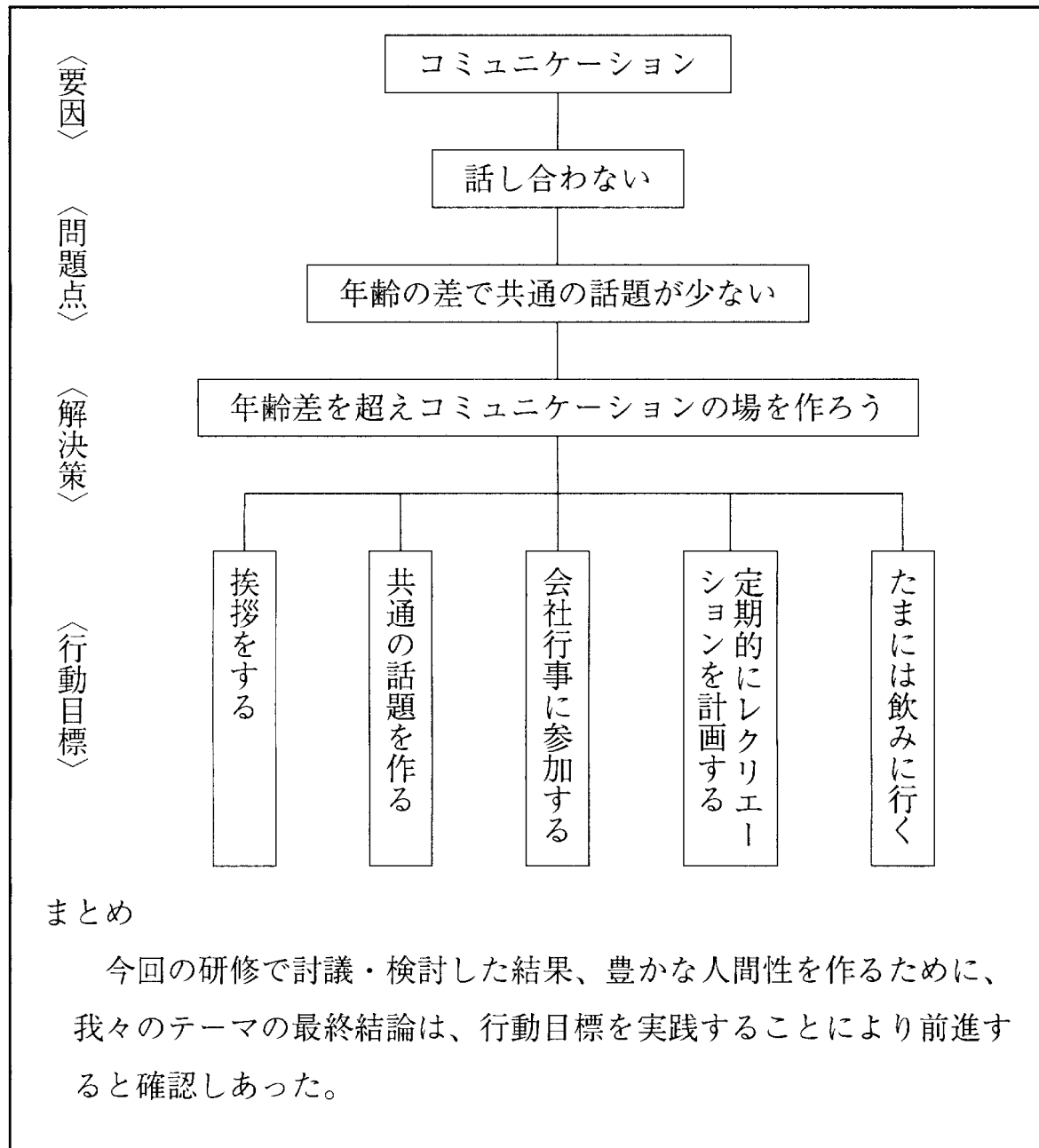


表 4





第6班第1グループは、魅力ある職場作りが大切であり、またやりがいのある職場には人間関係が一番大事であると考え、サブテーマとして表1のとおり「リーダーとして豊かな人間性をつくるためには」を討議テーマにした。私達8名は、最初に現在、監督者として困った事、悩み、また各職場で抱えている問題点をあげてはどうか話し合った。そこで全員に数枚のカードを配り、1枚につき問題点1項目を記入し回収したところ、約60件の問題点が出された。これを分析すると「仕事」・「教育」・「コミュニケーション」・「年代の差」で大きく4つに分類することができた。表2のように、幹からまずそれら4つの大きな枝を作り、カードに書かれた問題点を小さな枝として付け加え、特定要因図を作成した。本来なら、この小さな枝となる要因のすべての現状分析をするのが最善策なのであるが、とてもそんな時間はない。その中から最も重要とされる要因をとりあげるため、全員で重要と思われる要因を投票した。結果は表3の上部に示したように、点数の多い要因を6項目まで掲げてみた。そこで、重要とされた◎印のついた「相手の立場を考えない」・「話し合わない」の2点にしばらく時間の許す限り検討を試みることにした。この2つの要因となる「問題点」・「解決策」そして、「行動目標」について更に検討した。ここから先は大変長い時間を要し、また種々様々な意見が飛び交い討議は白熱した。異業種、他企業、年齢差のある者同志が集まり無理なところもあってなかなか結論が出ない。夕食後の自主研修やマイプランタイムまで利用しミーティングを行い、討議は繰り返された。私達第1グループは、第6班の鳴瀬征弘コーディネーター（東京電力(株)神奈川支店）の指導、助言をいただき表3・4のようにまとめることができた。

研究集会終了時には、コーディネーターから第6班の団員49名全員に、それぞれ職場に戻り実践するに当たり、P（プラン・計画）、D（ドゥ・実施）、C（チェック・行動）、A（アクション・行動）を回して目標達成に向け実施するよう励ましがあつた。最後に、各班より優秀なグループを選出し、班を代表してA・B両チーム合同の研究報告会が行われた。

研究集会のようす



私は、研究集会中2度の船酔いに苦しみ、祈るような気持ちで回復を待ったこともあった。今、当時の記録したノートをめくっていると膨大なページ数に及んでおり、メモを読み返すとミーティングの場面や団員の顔が鮮明に脳裏に浮かんでくる。

なお、表1～4は研究集会終了後、第6班第1グループのまとめとして日経連事務局へ提出した報告書である。全60グループの報告書が冊子「討議報告書」として1993（平成5）年11月に発行、全団員に配布された。

### 3. 講演

船上および寄港地講演は、次のとおりである。

10月17日

「変革の時代における管理者」

福岡道生団長 日経連専務理事

10月20日

「健康づくりとレクリエーション」

片山昭義 日本レクリエーション協会

10月21日

「最新の香港事情—中国返還を前に」

島内 憲 在香港日本総領事館首席領事

10月24日

「企業のあり方についての一思考」

三鬼 彰名誉団長 新日本製鉄取締役相談役

10月25日

「上海 過去・現在・未来」

小林二郎 在上海日本国総領事館総領事

講演内容もノートからかいつまんで簡単に報告したいと思う。

### 「変革の時代における管理者」

長引く日本経済の不況は、1985年のプラザ合意にあり、輸出依存型の国内産業の競争力の低下を招いた。労働時間の短縮、豊かな人間、内需進行形へと解決しないままバブル状態になってしまったのである。この不況は雇用問題にまで及んだ。利益を出さない・雇用をくずさない・人間尊重で日本の企業は、利潤を削ってまでして雇用を確保した。円高問題を解決するには、製造業の輸出入の問題だけでは無理で、新しい産業の開発ということになる。

そこで、この激動の中にある管理者はどうあるべきか。基本的原点は変わらないが、変えなければならない点もあり、次のことが必要となるであろう。

#### ① 管理者は、組織の太陽たれ

「長」たる者は、太陽のように輝け、威厳あれ、暖かく、厳しくなれ。

うつぶせにならず上を向け。

② 腕古参であれ

人の良い面を盗み、そして、盗まれる人になれ。

③ 人間好きになれ

あらゆる人と知人になり、人金持ちになれ。

④ 強い意志をもて

専門性を何か一つもち、人を引っ張っていける魅力を養え。

⑤ 強い部下をつくれ

強い部下をつくれれば、自分も強くなる。

⑥ 自分の健康に留意せよ

健康であれば健康な発想ができる。

健康とは安全であり、安全とは科学である。

以上のことばに、私は大変深い感銘を受けた。

### 「健康づくりとレクリエーション」

現代の社会に現代病として成人病がある。それは、青年から壮年にかけて起きる病気で、食べ過ぎ・運動不足・不規則な生活・ストレスなどが原因となり、心臓病・高血圧・動脈硬化・糖尿病などがあり心の病もある。人間関係などは、外からの不快な刺激からストレスがたまる。

昭和57年サラリーマンへのアンケートで、1万2,000名を調査した結果、7名に1名は将来ノイローゼになる要素があるということが判明した。

身神病・神経病である心の病は、身体にも影響するためストレスを解消する方法を身につける必要がある。自分の健康は自分で管理しなければならず、健康の3要素である休養・栄養・運動をバランスよく生活の中に取り入れることによって健康な身体になるのである。

休養には、消極的休養と積極的休養に分けられ、前者は、身体を動かさずに休むことで、後者は、運動後の整理運動のことである。それは、明日への鋭気を養うものである。

栄養では食生活のバランスに気をつけ、1日30品目を摂り炭水化物6割、タンパク質3割、脂肪1割のバランスが最も良いとされている。

運動を続けるコツは「力まない・休まない・楽しい」を目標に自分のレベルより低目の運動から始めるのが良い。生活に密着しているのにウォーキングあり、足を使うことにより血液の循環をよくする。筋肉の3分の1は脚にあり、第2の心臓とも言われている。

自分の健康を潑刺とさせるには、「毎日行う。週末に楽しむ。長期休暇をうまく使う。」この3つの活動を持とうと最後に締めくくった。

### 「最新の香港事情—中国返還を前に」

香港の中国への返還は1997年に向けて秒読みである。1985年の英中共同宣言では、行政・軍事は別にして返還後50年間は、政治・経済・生活はそのまま（一国両制）で合意されている。

現在、地価は高騰し、一人当たりのGNPは1万7,000ドルを超え、アジア太平洋地域で日本に次ぎ2位である。5.5%の経済成長の見通しがあり、貿易総額は300億ドルで10位となっている。幼児死亡率は低下し、平均寿命も高く福祉国家である。

世界最大のコンテナ港である香港の繁栄には次の要因がある。香港が天然の良港である自然条件とアジアの中心に位置する地理的条件が重なり、朝鮮戦争をきっかけに中国が貿易の中継地点となった以降、地場産業をもとに香港の工業が発展した歴史的機会があった。また統治していたイギリスの最大遺産である自由主義と中国人の優秀性もあげられる。

中国の改革解放路線の定着から広東省には香港の経済が進出し、1万8,000社の香港系企業が300万人の従業員を雇っている。香港の影響は、経済面ばかりでなく文化や生活までゆきわたり「広東省の香港化」とまで言われている。

中国にとって香港は大変大事な不動産となるが香港の民主化を嫌っている。中国はイギリスと政治合意が得られなくても香港の繁栄に努力は惜し

まないだろう。もし一国両制がうまくいけば台湾の返還もうまくいくと考えている。

日本と香港の今後の関係については良好を保っていくと思われる。

### 「企業のあり方についての一思考」

今までの会社人間はだめで、これからは、多様化する価値観の違いを重視しなければならない。従って、やらせ主義や命令ではなく一体となってやろうという心がけが管理監督者として必要となるのである。

管理監督者の心がけとして次の4点があげられる。

#### ① 人間関係

人間社会は、人によって自分も活かされている。そして光るのである。人の接点が人間関係として大事であり、協力と努力があって一つの成果がある。運も自分の努力によって変わるのである。

#### ② 自分のポジションより1～2ランク上の立場で物事を考える。

自分の立場だけでなく、一つも二つも上に立って考えると自然に新しいものが見えてくる。上司から見ると非常に頼りになり、部下から見るとえらいと思ってあこがれる。

#### ③ 情報というアンテナを張る。

何事でもよいので問題意識をもって、自分にプラスになることは身につけること。この意識をもつことがやる気の原動力となる。

#### ④ 遊びの効用を巧みに使う。

緊張一点張りは長続きしない。「緊張・弛緩（ゆるみ）・緊張」の連続が効果あり。部下の気持ちのゆとりを持たせ、上司も時には馬鹿になる。それは無駄ではなく有効となる。

### 「上海 過去・現在・未来」

上海は、中国の中で最も水準の高い地域である。総面積6,200km<sup>2</sup>、人口は1,300万人、人口密度1km<sup>2</sup>当たり2万5,000人。上海の歴史は比較的新し

く、1290年県に昇格するまでは小さな漁村であった。上海の別称を沪(HU)と言ひ網の意味である。その後、16世紀頃より貿易港として発展した。1842年アヘン戦争の結果、南京条約から開港し、帝国主義諸国の支配下におかれ、各地に租界がおかれた。

輸出加工だけでなく新しい街を作ろうと、浦東新区を開発すれば香港・東京を上回る都市になると言われている。労働者の1ヶ月の収入は、平均400元~1,000元（1元は約20円）で高所得・高消費でインフレを生んでいるが、収入は上がっているので不満はない。最近は、日本との合弁企業の出現により人件費などが上がるために内陸部へ進出している。140の姉妹都市を結び、対日関係は良好である。

#### 4. 視察報告（台湾）

台湾における視察（10月19日）は、次のプログラムが用意された。

##### Aコース

台湾経済人の講演を聞くコース

「台湾経済の現状とビジネスマン生活」

林 惟堯 中泰租賃股份有限公司常駐顧問

##### Bコース

台湾の貿易事情を知るコース

台北世界貿易センター

##### Cコース

台湾企業の生産現場を見学するコース

- ・名佳利金属工業股份有限公司
- ・士林電機股份有限公司
- ・黒松股份有限公司
- ・冠球股份有限公司

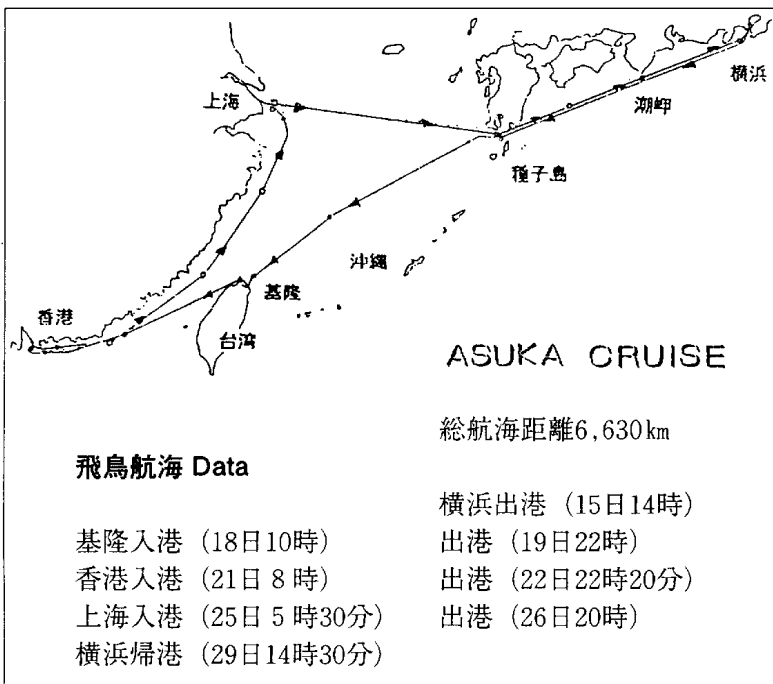
A~Cコースのうち私は、Bコースを選択し、台北世界貿易センターの

見学と担当者による解説を受けた。

台湾の輸出振興のために1988年に建設した7階建てビルの大展示場である。1階は、見本市会場として利用され、私達がちょうど訪問した時には、「台湾国際木工機械ショー」が開催されていた。2階からは、国内優良企業の事務所と1,500以上の企業のショールームが設けられ、30万点を超える輸出用製品が展示されている。展示場の大きさと製品の多さにも目を見張るものがあり、今にも日本を追い越さんばかりのバイタリティーには驚威を感じた。一人当たり GNP 1万820ドル。国土が狭く、人口が多いため貿易依存傾向が強い。貿易総額1,535億ドル。主な取引先はアメリカ・日本・香港などである。

### 5. 寄港地研究

洋上研修中、台湾・香港・上海と3つの中国を訪問するチャンスを得た。



10月18日最初の訪問国台湾へ無事到着した。横浜港から2,100 kmの航海を経て台湾の基隆港へ入港。日本を発って4日目であるのにずいぶん長い間航海していた気がして、陸上が懐しく思えた。現在、国交がないため厳しい入国審査が船上に

で行われた。私にとって台湾は、18年ぶりの再訪である。あいにくの雨の中、団員らは20台のバスに分乗し、台北市へ向った。

台北市の街並みは、建設中のビルが至る所に見られ活気に満ちあふれた都市である。道路には、嵐のように走り去るバイクの洪水、そして、信号



無視、マナーの悪さが目についた。車が優先で道路の横断には細心の注意が必要とのことである。

さて、訪問先は、故蔣介石総統を記念して造られた中正紀念堂、戦死した将兵33万人の英霊を祀っている忠烈祠、世界最大の文化財コレクションの国立故宮博物院など。特に印象に残った所は、台北市郊外の国立故宮博物院である。世界四大博物館の一つに数えられ、中国歴代王朝の書画・陶磁器・彫刻・漆器など国宝級の美術品70万点が収蔵され、常時、2万点を展示し、展示品は3～6ヶ月ごとに替えられているそうである。歴史の重みを感じ、何度訪れても飽きないものであった。

夜は、ディナーショーを観賞。歌・民族舞踊・アクロバット・魔術などをたっぷり堪能した。

台湾における2日間の研修は有意義に終了し、ガイド・運転手らのみなさんに見送られながら香港に向け出港した。

台湾をあとにして、2日後の10月21日午前8時、2番目の寄港地、香港へ入港。港には、大変多くの日本企業の看板が目に入った。建ち並ぶ超高層ビルを目の当たりにして、経済大国を印象づけた。道路は至る所で渋滞し、走っている車の3台に1台はベンツなどの高級車である。しかし、住宅事情は悪く密集したビルの一部屋に数人の家族が共同生活、また、船上生活者があり、貧富の差を強く感じた。

香港島では、リゾート地である浅水湾、胡文虎花園（旧名、タイガー・バーム・ガーデン）、政治・経済・商業の中心地セントラル地区など、そして、大陸につながる九龍半島では、ネイザンロードの繁華街などを見て回り、地下鉄の乗車体験もして、香港最大の寺院である黄大仙廟を参拝した。

夜には、ケーブルカーで標高554mのビクトリア・ピークへ。そこから見下ろしたネオン輝く眺めは抜群で、百万ドルの夜景は決して忘れることのできない感動だった。

イギリスの統治が終わる1997年6月に中国へ返還されるが、船上講演の

内容とは裏腹に現地の人の話を伺うと、その動揺は隠しきれない様子である。それは、中国政府の不信感から他国への移住あり、復帰後の人民解放軍の監視と脅威の予想があり、港にはレジャー用大型モーターボートの係留（有事の際の国外逃亡用）が目をひいた。

香港寄港中の自由時間にはマカオを訪問した。香港からホーバーフェリーに乗り1時間で到着。マカオも400年に及ぶポルトガル領から1999年12月に中国へ返還される。

東洋と西洋が独特に融け合った街並みは、中世的な落ち着いた雰囲気がある。その中を、17世紀日本人キリシタンが協力して造り上げた寺院聖ポール天主堂跡、明代創建のマカオ最古の道教寺院で海の守護神阿媽を祀る媽閣廟を訪れた。

平日でも休業の店があり、その経営者がいつも替わっているとのこと。店主がカジノ通いで忙しく、賭博に負け、店を転売するため閉店しているという話はいかにもマカオらしい。観光客も含め、カジノにおける売り上げは、返還後の中国にとって莫大な収入源になるという。マカオでは、生活水準の低さを感じた。

香港での2日間も終わろうとしている。団員らはデッキに出て、夜景に別れを惜しんだ。私は、複雑な国情を思うに、永遠に夜景のすばらしさが続くことを願った。他の団員らも、香港での数々の思い出を胸に刻み、「飛鳥」は一路上海へ向った。

10月25日早朝、汽笛の音で目を覚ました。船室の窓から覗くと、長江口（揚子江）を航行中。曇天の中、最後の寄港地、上海へ入港。「飛鳥」は静かに接岸。朝もやが立ち込め、外は肌寒い。

パトカーの先導によりバス20台が上海市内を移動し、赤信号でも交差点を通過できるように、警察が配慮してくれた。中国市民が私達を見つめる視線に何か冷たい感触を持った。ここでも人と自転車の群れ、クラクショ

ンの喧騒には驚嘆した。服装を見ても派手やかではなく、ファッションの街＝上海のイメージは結びつかない。近代的なビルとレンガ造りの民家が入り混じり、この対照的な光景は複雑だった。しかし、将来の発展に向けて人々のエネルギッシュな様子が伝わってきた。

まず最初に、上海体育学院を訪れて、学生たちの徒手体操・武術を見学し交流を計った。午後からは、玉仏寺のビルマからもたらされた仏像を拝観。そして、明代の名園である預園では、絵画に出てくるような庭園に見とれた。

夜には43階にある回転レストランにて、デラックスディナーとジャズを満喫。中国4,000年の歴史を振り返りながら上海の夜景に陶醉した。

翌日は、蘇州に赴いた。上海の西、84kmの所にあり、鉄道を利用して約1時間。蘇州の歴史は古く、紀元前514年にさかのぼる。町なかを縦横に走るいくつもの運河、石造りの太鼓橋、並木道沿いに通る小船の眺めは、蘇州独特の趣があり、雨に打たれた景色は水墨画の世界である。この美しい町は、宗代以来、官僚・地主らのあこがれの地となり、庭園が次々と造

蘇州  
町なかを走る運河と太鼓橋



られたそうである。

訪問地は、呉王の闔閭を埋葬した虎丘、蘇州の四大名園の一つの拙政園、唐代の詩人・張継の詩「楓橋夜泊」が詠まれた寺としてはあまりにも有名な寒山寺である。

ツアーも無事終了し、全員午後6時過ぎには帰船。「飛鳥」に戻り、なぜか我が家のようにほっとしたのは私だけではなかっただろう。

わずかな日程の中での寄港地研修であったが、台湾・香港・上海と一度に3つの中国（マカオも訪問したので実際には4つ）を見聞して、大変貴重な経験をした。これら、直接触れることによって国際社会人としての視野の拡大に大きく役立ったと思う。そして、日本の豊かさと平等さを改めて認識した。

### おわりに

研修集会・講演・寄港地研修など充実した洋上研修であった。当初の不安も横浜港に帰港すると満足感に変わった。終わってみれば15日間は、あっという間に過ぎてしまった感じがする。

日頃、図書館員として相互協力・地域ネットワークあるいは、電算化システムに関する研修会に参加しているが、今まで、経験のなかった他企業・異業種の方々との様々な交流を深めたことで、私自身、啓発され新しい発見があった。まさに、変革の時代にあって、リーダーとの役割とは何かについて大いに学ぶことができた。この洋上研修で得たものを、今後の職場・家庭・社会の中で活かしていきたい。

最後に、豪華クルーズでの生活では、レクリエーション活動、洋上慰霊祭、船側の各種イベント、パーティー、ブリッジ見学など石河船長はじめ国際色豊かなスタッフの心温まるサービスにより優雅なクルージングを終えた。

たくさんの思い出を、「飛鳥」よ、ありがとう。